

～株式投資で勝つ方法～ - エライ人の金言編 -  
その2 ピーター・リンチに学ぶ(全5回)

2005/05/27 太田寿一

第1回 だから、ピーター・リンチって誰!?

ファンドマネージャーにとって憧れの存在であり、最も尊敬を集めている人物がピーター・リンチです。ピーター・リンチはフィデリティマネジメント&リサーチ社(フィデリティ社)のファンドマネージャーとして活躍し、彼が運用を担当した「マゼランファンド」は、運用当初は2,000万ドルだった資産が、彼の手によってわずか13年で140億ドルにまで成長したのです(年利65.5%!)

ピーター・リンチは1944年1月に生まれました。父親はボストン大学の数学の教授でしたが、ピーターが10歳の時にガンで亡くなり、その後母の手一つで育ちました。少年時代は家計を助けるためにゴルフのキャディのアルバイトをしていたそうです。実はピーターが株式市場に触れたのはこの時が初めてで、コースを回るビジネスマンの成功話を聞くことで株式市場に興味を持つようになりました。そしてこの時に知り合ったフィデリティ社の社長ジョージ・サリヴァンの助言で、ボストン大学の4年生の夏休みの時にフィデリティ社でアルバイトをしました。ピーターはこのアルバイトで、企業調査とレポート作りの仕事を任せられ、実務を吸収していったのです。

ボストン大学を卒業し、ペンシルベニア大学のウォートン校のビジネススクールでMBAを取得した後、1967年から69年までの2年間韓国で兵役につき、そして69年にフィデリティ社に入社しました。ピーターは74年にアシスタントディレクターからディレクターに昇進し、77年にはマゼランファンドの運用を任せられるようになりました。そして前に述べたとおり引退するまでの13年間で驚異的なパフォーマンスを達成し、その活躍はタイム誌で「全米No.1ファンドマネージャー」と絶賛されました。

ピーターは90年にファンドの運用責任者の職を辞しました。現在はフィデリティ社の副会長であるとともに様々な大学・公共団体のファンドの理事を務めています。

ピーター・リンチの金言コーナー

- ・たとえ高名な音楽家の演奏であっても、ラジオで聞いたものにお金を払うことはない。
- ・「追悼のラッパ」が鳴っている間は、決して復活にかけてはならない。

参考文献 『ピーター・リンチの株式投資の法則』(1994)

ピーター・リンチ(著) 酒巻英雄(監訳) ダイヤモンド社

『ピーター・リンチの株で勝つ アマの知恵でプロを出し抜け』(2001)

P・リンチ&J・ロスチャイルド(著) 三原淳雄・土屋安衛(訳) ダイヤモンド社

『マネーマスターズ列伝~大投資家たちはこうして生まれた』(2000)

ジョン・トレイン(著) 坐古義之・臼杵元春(訳) 日本経済新聞社